
日常妄想虚言壁

アダムの肋骨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常妄想虚言壁

【Nコード】

N2005D

【作者名】

アダム肋骨

【あらすじ】

短編集です。日常的にありそうな…でもやっぱりないな…的な内容です。個人的には一番最後の『無線』がおすすめ

（前書き）

短編集です『いたずら』『流されない子』『無線』等心持ち雰囲気
を似させないように作ったつもり…なんにしる色々カオス

＊＊いたずら＊＊

家のベルがなったので、

俺は扉を開けた。

『此処はドコなのですか？』

7才程度の少年がこちらを見上げていた

『此処はナニなのですか？』

話し方が何だかおかしい

『あなたはナニなのですか？』

わけの分からない言葉を発している

『私はナニなのですか?』

少年は、質問をするだけすると

答えを知ろうともせずに去っていった

その少年を目だけで追っていくと、

となりの家へ歩いていくのが分かった

そして俺にしたことをまた一通り繰り返すと、

今度は別の家へ移動していった。

何をしたいのか分からない…

あれは新手のいたずらだ

新種のピンポンダッシュだ

忘れることにした

＊＊流されない子＊＊

もうそれ以上立ち止まらないで

君がそこにいたって、

君は世界に流されるだけ。

流されるなんていやだろう？

だから君自信の足で歩いて、

世界から逃げるんだ

そしてずっと、

逃げるんだ。

雪崩に流されないよう…

津波に流されないよう…

人ごみに流されないよう…

君は逃げ続けるんだ

立ち止まったらそれが最後：

世界に流されたくないのなら

逃げ続けるしかないんだよ

＊＊無線＊＊

「こちら1番隊、只今スーツケースで待機中。どーぞ」

『こちら2番隊、只今貨物列車で待機中。どーぞ』

「興味本位で入ってみました。どーぞ」

『こちら興味本位で入ってみました。どーぞ』

「ぶつちやけ、スーツのにおいが好きなんです。どーぞ」

『ぶつちやけ、荷物のにおいが好きなんです。どーぞ』

「いやいやお前それ変態だろ。どーぞ」

『いやいやお互い様だろ。どーぞ』

「ぶつちやけなんで待機しているのか忘れました。どーぞ」

『待機なんて一種の自己満足に過ぎないとおもいます。どーぞ』

「てか、もう此処から出れません、心地よくて。どーぞ」

『私も出られません、てか出たくありません。どーぞ』

「私は此処で生涯を終えようと思います。どーぞ」

『ぶつちやけ、もうどーなってもいいです。特にお前は。どーぞ』

「これから僕はスーツケースの妖精になろうと思います。どーぞ」

『これから僕も貨物列車の精霊になろうと思います。どーぞ』

「妖精と精霊ってどう違うんでしょうか。どーぞ」

『どっちでもいいけど僕は精霊のほうがいいです、何かそのほうが神聖じゃん。どーぞ』

「いやいや妖精のほうが神聖だからね。どーぞ」

『いやいや妖精は名前に妖怪の『妖』が入ってる時点で妖しいからね。どーぞ』

「いやいや妖しいほうが何だかいいじゃん。神秘的で。どーぞ」

『神秘も神聖も無いだろ。どーぞ』

「じゃあ、神様をお願いしよう。どーぞ」

『そうしよう。どーぞ』

「じゃあ、此処から出よう。どーぞ」

『あーでもまだこのにおい嗅いでいたいわー。どーぞ』

「じゃあ、やめよう。どーぞ」

『いいよ、遠慮すんなって、お前は行ってこいよ。どーぞ』

「お前一人、置いていくかよっつ（きらん）。どーぞ」

『あー何か今胸キュンしたわー。どーぞ』

「あーそれないわー、無理だわー。どーぞ」

『ぶつちゃけもう感嘆詞しか聞こえねーよ。どーぞ』

「ぶつちゃけ僕飽きたんで、スーツケースから出ようと思います。どーぞ」

『いやいやそれないから、チミはもうスーツケースから出られないから、鍵かけちゃったから。どーぞ』

「先輩イっつ！なにやらかしてくれてるんですかつ。どーぞ」

『ちよつとした出来心です。どーぞ』

「いい加減もうスーツのにおいがしません、嗅ぎすぎて。どーぞ」

『それ僕のスーツだから。どーぞ』

「吐き気がするので早退させていただきたい。どーぞ」

『いやいや、チミはもう僕のスーツに包囲されている。どーぞ』

「チミて呼ぶのやめてください。どーぞ」

『しゅみなんです。どーぞ』

「本気で気持ち悪いです。どーぞ」

『おにゅーのスーツなんではかないで下さい。どーぞ』

「もう心配要りません吐きました。どーぞ」

おにゅーのスーツはおにゅーのスーツケースと共に焼却炉へ廃棄されました。

スーツが臭けりやボイラー燃える

ケースが臭けりやボイラー燃える

中身の生体もろともに

（後書き）

いかがだったでしょうか…きっと最後まで読んだ方は色々消化しきれない内容だったと思います。スイマセンでした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2005d/>

日常妄想虚言壁

2010年12月4日21時33分発行